

第2回懇話会委員意見および堺市生涯学習基本方針（案）への対応について

NO	ページ	該当箇所	意見内容	対応
1	P.3	「生涯学習行政のイメージ図」について	図内の色分けの意味は何か。大学等との連携としながらも、そこに「連携・協働」の矢印がないことが気になる。	行政以外の団体を白色で表記している。「連携・協働」の矢印を追加し、大学等との連携を含むことがわかるようにした。
2	P.6	「1 社会的背景と学習環境の変化」への掲載内容について	当該箇所については、課題を述べる箇所ではないため、「○公共施設の維持管理の課題」については「○公共施設の老朽化と財政負担」とすべきではないか。それに伴い内容の表現も検討していただきたい。同様に「○新型コロナウイルス感染症…」「○人口減少…」の内容（「課題」が記載されている）も検討していただきたい。	「○公共施設の維持管理の課題」について「公共施設の老朽化と維持管理」に変更した。各項目の一部の内容について、現状を述べる表記に変更した。
3	P.17	「5 生涯学習の課題」への市民意識調査結果の反映について	堺市の生涯学習の課題に、調査結果があまり反映されていないように思う。市民意識調査の結果を根拠資料として、できるだけ引用すべきと考える。	「5 本市の生涯学習の課題」に変更。また、市民意識調査の結果を2か所追記した。 ① 1年間に行なった生涯学習の内容として「仕事上の知識・技術・資格の取得に関することが」と回答した人の割合が前回調査時より10%近く増加 ② 4割以上の方が「オンライン学習」をしたいと回答
4	P.17	「(1) 生涯学習の内容・機会の充実」について	「…学びを通じて成長する」とあるが、「成長する」という言葉は生涯学習では適切ではないと思う。「成熟する」又は「充実する」という表現の方がよい。「成長する」という言葉は、P.8の第10期中央教育審議会での表現に合わせていると思うが、これからの成熟社会を勘案した時に、教育において成長という表現は、違和感を持つてくるように思う。	成熟・充実も含めて「成長」と考えており、表現の変更はしなかった。いくつになっても、学びにより人は成長するという意味でとらえている。
5	P.17	「(3) 学習成果を生かせる機会の充実」について	「…地域社会を活性化させることにも意義があります。」とあるが、「活性化」という言葉に違和感を持つ。地域の活性化は生涯学習の本来の目的ではなく、必ずしも地域社会の活性化に有効に働くとも言えない。そこで、OECDやSDGs等でも使われている「健幸(Well-Being)」という言葉を用い、「地域社会の健幸(Well-Being)のために／に貢献する」という表現を検討していただきたい。	地域社会の活性化に意義があるとの直接的な表現を避け「…学んだ成果を地域に生かすことにも意義があります。」に変更した。その上で、次の文章に「地域社会の活性化や社会的課題の解決につながる」を追記した。「地域社会の健幸(Well-Being)」という言葉は、一般的になじみが薄いと見え、現時点で用いることは行わなかった。

NO	ページ	該当箇所	意見内容	対応
6	P.20	「基本方針 2 誰一人取り残さない学びの支援」について	「基本方針 2」は P17 の「5. 生涯学習の課題 (2) 生涯学習環境の整備」に対応した施策と考えるため、「誰一人取り残さない学びの支援」を「…学びの環境整備」に変更の方が適切ではないか。また、「環境整備」とした場合、P.21 の「取組の方向性 3 : ダイバーシティ社会実現に向けての学びを支援します」を「…学びを担保します」に変更してはどうか。	基本方針 2 は概ね「5. 生涯学習の課題 (2) 生涯学習環境の整備」に対応した施策ではあるが「環境整備」にとどまらない内容 (ダイバーシティ社会実現に向けての学びなど) が含まれており、より広く「支援」という言葉を用いる方が妥当と考えるため、変更は行わなかった。なお、「取組の方向性 3 : ダイバーシティ社会実現に向けての学びを支援します」については「推進します」に変更した。
7	P.20	取組の方向性 2 「多様な主体と連携した学習機会の拡充と情報発信」について	「地域の団体組織と連携した学習機会の拡充」としてはどうか。また、「取組の方向性 2」のタイトルと合わせるため、2 つの項目の記載順は逆にすべきと考える。	地域の団体に限らず、広域での連携や情報発信に取り組むため、「大学や企業等と連携した」という具体的な表現に変更した。また、2 つの項目の記載順については入れ替えた。
8	P.21	取組の方向性 3 「学びを通じた女性の社会参画の推進」について	この項目をあえて設置する意図は何か。「共生社会に向けた取組」で謳われているように思う。	出産や育児等の事情により、離職したり、学びたくても学べない女性がいることに着目し、女性にとって学びやすく社会参画しやすい学習環境の整備が必要と考え、本項目を設置している。
9	P.22	取組の方向性 2 「人と人をつなぐ交流機会の促進」について	表題を「交流による地域意識の醸成」に変更してはどうか。この表現では次の「多様な主体との交流機会の創出」との違いがよく分からない。まず地域意識 (ローカルアイデンティティ) が形成されなければ、地域の課題について取り組むことはないと思うため、内容についても検討いただきたい。	「人と人をつなぐ交流機会の促進」の本文の中で「地域意識の醸成」について追記した。また、次の「多様な主体との交流機会の創出」については、その趣旨が明確になるように、内容を一部変更した。

※上記意見は全て杉本座長。

【その他の意見】 ※他の委員から内容修正に関する意見はなかった。

○OP4 下段のイメージ図は生涯学習のあるべき姿をわかりやすく説明できている。(山本委員)

○全体的に関連する国の方針や政策目標、施策方策が簡潔にまとめられており、それらを受けての堺市の取組、市民意識調査結果、堺市の生涯学習の課題から、今後の基本方針と取組の方向性へと続く流れ・構成がよくできており、専門家ではない一般の市民の方にもわかりやすいと感じた。(山本委員)